２０２６年度　２学年通信
「あすなろ」
甲府東高等学校
2026．10．23(金)
第８号

「学年通信」は、生徒の皆さんが読み終わった後、必ず保護者の方に渡してください

見方を変える、景色が変わる

２学年主任　樋口　真理子

私には、長年大切にしている言葉があります。

「いいことは おかげさま　わるいことは 身から出たさび」

という、相田みつをさんの言葉です。若い頃の私は、この言葉の後半が苦手でした。何かうまくいかないことがあると、「自分が悪かったのだ」と必要以上に自分を責めてしまっていたからです。

しかし今は少し違う意味で受け取っています。私たちは、思い通りになったことを「いいこと」、思い通りにならなかったことを「わるいこと」と考えがちです。でも、本当にそうでしょうか。振り返ってみると、その時は失敗だと思っていたことや、遠回りだと感じていたことが、後になって自分を支えてくれていたと気付くことがあります。反対に、「自分の力でうまくいった」と思っていたことも、実は周りの人の支えがあってこそ実現できていたのだと感じることもあります。

だから私は、うれしいことがあったときには「おかげさま」を思い出して少し立ち止まり、思い通りにならないことがあったときには「身から出たさび」を思い出して、「次はどうしてみようか」と考えるようにしています。私は「身から出たさび」とは、自分を責めるための言葉ではなく、「次はどうしてみようか」「別の見方はできないだろうか」と考えるための言葉だと思っています。悩みや不安を抱えているとき、人はどうしても視野が狭くなります。そんなときは、一度立ち止まり、自分の見方や考え方を少し広げてみることも大切です。

その助けの一つが読書です。本の中には、自分とは違う価値観や生き方があります。自分一人では経験できないことを疑似体験させてくれます。最近、私は青山美智子さんの『リカバリー・カバヒコ』をもう一度読みたいと思っています。悩みや迷いを抱えた人たちが、少しずつ前を向いていく物語です。本は、ときに見慣れた景色を少し違って見せてくれることがあります。

11 月も、それぞれの歩みを大切にしながら、一日一日を積み重ねていきましょう。

11 月の主な行事予定

１１月	２日（月）	学校創立 50 周年記念行事　芸術鑑賞会を含む
	３日（火）	文化の日
	４日（水）	５分短縮授業，三者懇談 ，第２回バイク免許取得希望者説明会（昼）
	５日（木）	５分短縮授業 ，三者懇談 ，芸文祭グランドステージ・パレード
	６日（金）	▲カセット ，午後授業カット ，三者懇談
	９日（月）	午後授業カット ，三者懇談
	１０日（火）	午後授業カット ，三者懇談 ，バイク安全運転講習会（PM）
	１１日（水）	登校時マナーアップ運動 ，第３回定期試験時間割発表 ，学習強化週間（～17 日）
	１８日（水）	第３回定期試験（２５日まで）
	２０日（金）	県民の日 （生徒休業日）
	２５日（水）	④クリーンキャンペーン
	２６日（木）	成績処理日（生徒休業日）





【２学年リレー通信】

５０年ってすごい！

２年２組　副担任　内藤　理恵

１１月２日。何の日かみなさんわかりますか？昨年も話があったと思いますが、本校の創立記念日です。そして今年は記念すべき５０回目の創立記念日となります。詳細はまた連絡しますが、創立５０周年を記念して、YCC 県民文化ホールにて記念式典、卒業生の保要佳江さんによる記念講話、東儀秀樹さんによる記念公演が予定されています。

私は縁あってこれらの行事に携わることになり、昨年から本校の歴史や卒業生の皆さまと関わる機会をいただきました。同窓会の方々による様々な行事や事業はもちろん、記念誌には多くの卒業生が寄稿してくださったり、１期生の皆さまがわざわざ本校に来て座談会をしてくださったりしました。ほかにも同窓生の有志（報道、広告、番組制作関係の方）で「何かしたい」「他の伝統校にも負けたくない」と、さまざまな企画を考えてくださっています。そんな方々との関わりの中で強く感じたのは、本当に多くの卒業生がさまざまな現場でご活躍されていること、そして皆さまが総じて「母校のためにぜひ」「在校生に少しでも役に立つならば喜んで」という熱い思いをもってくださっていることです。挙げるとキリがないほどなのですが、既出の方以外にも記念誌編集にご尽力くださった方、招待状のデザインを手がけてくださった方、記念品の作成に関わってくださった方も本校の卒業生です。そんな皆さまは打ち合わせの時など、必ず高校時代のお話を懐かしそうに話してくださいます。楽しかったこと、頑張ったこと、つらかったこと・・そして今の東高校の生徒の活躍を我がことのように喜び、誇らしげに語ってくれます（新聞に出てましたねとか TV みましたよとか・・）。そんなお話を聞くにつけ、途切れることなく続いている５０年という年月の重みと新たな日々を積み重ねている毎日を思わずにはいられません。

今私たちが当たり前のように過ごしている、毎日の充実した学校生活は、「本校５０年の歩み（過去）」と「今、社会を支えている多くの卒業生たちの思い（現在）」に支えられています。そして今まさにこの一日一日が「次の５０年に向けての一歩（未来）」になっているのだと改めて気づかされた１年でした。

